

### 〈企画の趣旨〉

シンポジウム「中世の自由学芸」は、2年連続の企画として始められた。企画初年度の昨年は、古代ギリシアの全人教育の理念が12世紀に至るまでどのような形で発展・変遷していったかについての大きな流れが明らかにされたが、今年度は盛期スコラ（13世紀）からルネサンス（16世紀）に至る時代が扱われる。

盛期スコラの時代は、周知のごとく、大学の成立やアリストテレスの西欧帰還、そこから派生した二重真理説などによって自由学芸に決定的な変化がもたらされた時代であり、学問と宗教との分離を前提とする、現代にまで至る学問の基本的枠組みはこの時代にその基礎が据えられたと言ってよい。

今回のシンポジウムを通して、会員諸氏が西欧における自由学芸の流れを把握し、現在の学問・教育の問題を新たな視点から捉え直して下さることを願っている。

（シンポジウム企画チーム：水落健治，永嶋哲也，周藤多紀）

※なお企画初年度「中世の自由学芸 I——ギリシアから前期スコラの時代へ——」の成果は、中世思想研究第 56 号（2014）、65-129 頁に掲載されている。併せて参照されたい。

---